

(Ⅶ－ 5) 人工海浜公園に関する意識調査について

日本大学大学院	学生会員	畠山敦子
同 上		井口かおる
日本大学理工学部	正会員	竹澤三雄
日本大学短期大学部	正会員	前野賀彦

1. まえがき

東京の海は、江戸の昔にさかのぼると500年の歴史を持っている。当時から、人々に身近な存在であり、のりや魚介類を供給したり、生活物資を運ぶ船の水路であったり、水遊び、釣りといった余暇を楽しむ水面だったりして多くの人々に親しまれてきた。しかし近年、東京湾周辺環境が悪化したため、人々の生活の場と海との関わり合いがあまりにも稀薄になってしまっている。そこで1975年に開園したお台場海浜公園をはじめとして、東京湾沿岸にはいくつかの人工海浜公園が建設され、さらに今後もいくつか計画されており、人々と海との関わりをより密接なものとするべく多くの工夫がなされている。東京湾の人工海浜公園は、東京湾の埋め立てと汚染によって失われた海の自然を保全し、回復させることを目的として構想されたものであり、さらに多様なレクリエーションの場として利用することがもう一つの目的である。本研究は開園して数年以上になる東京湾沿岸に建設された人工海浜公園が、来園者にどのような印象を与えているかをヒヤリングによってアンケート調査し、今後の人工海浜公園計画の基礎資料に資することを目的とするものである。

2. 調査の対象地点

今回の調査対象地点は図1に示すように、1975年に開園したお台場海浜公園、1989年に開園した葛西海浜公園、1990年に開園した若洲海浜公園、1991年に開園した城南島海浜公園である。これらの公園は、東京都が水域における自然環境の保全及び回復を図り、水に親しむ場所として計画した10カ所の海浜公園のうち、実際に海に接している公園である。

3. 調査内容とその結果

前記の4公園にそれぞれ調査員2名を派遣し、夏と冬、各公園の利用者100名に以下の26項目についてヒヤリングによるアンケート調査を実施した。

- (1) 年齢(2) 住所(3) 使用した交通機関
- (4) 家からの到達時間(5) 来園回数(6) 海浜公園を知った理由(7) 一緒に来た人(8) 来た目的(9) 公園での在園時間
- (10) 公園施設の満足度(11) 利用した施設(12) 必要と思う施設(13) 不要と思う施設(14) 公園内の好きな点(15) 公園内の嫌いな点(16) 改善するべき点
- (17) これから必要と思われる人工海浜

- 公園の種類(18) 以前に人工海浜公園に行ったことがあるか(19) この公園が人工海浜公園であることを知っているか

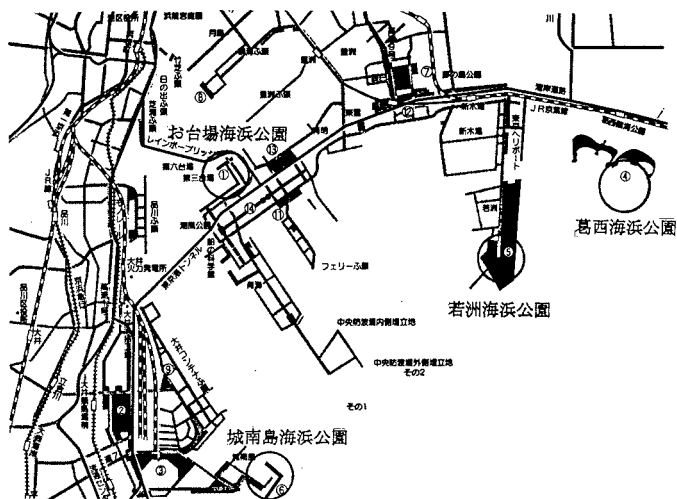


図1・アンケート調査地点

キーワード: 人工海浜公園・東京港・意識調査

連絡先: 千代田区神田駿河台1-8・TEL; 03-3259-0676・FAX; 03-3293-3319

(20)またこの公園に来たいと思うか(21)この人工海浜公園の夏と冬のどちらが好きか(22)冬にこの公園に来たいと思うか(23)今までいった海浜公園でどこが一番好きか(24)今後、東京湾岸エリアをどの様に利用すべきか(25)離岸流という言葉を知っているか(26)実際に公園内に入って自然と触れ合うことの出来る公園がよいか、入ることは出来ないが景観に重点を置いた公園がよいか。表1は、以上のアンケート調査の一例で、人工海浜公園に来た目的について平成10年9月(夏)と12月(冬)に調査した結果である。

表1・ アンケート調査結果の一例(来園目的:設問8)

H10: 夏	水遊び	散歩	ジョギング	子供と遊ぶ	景観	スポーツ見る	釣り
葛西	0	29	0	20	23	3	7
若洲	0	37	3	12	29	0	2
城南島	0	28	15	19	32	0	28
お台場	20	80	0	28	62	0	0
	スポーツする	ハイキング	鳥を見る	その他			
葛西	5	0	0	13			
若洲	0	0	0	16			
城南島	29	8	3	48			
お台場	3	0	0	20			

H10: 冬	水遊び	散歩	ジョギング	子供と遊ぶ	景観	スポーツ見る	釣り
葛西	0	25	0	24	31	0	7
若洲	0	27	6	30	13	0	4
城南島	2	3	5	7	10	0	12
お台場	31	21	2	3	10	5	0
	スポーツする	ハイキング	鳥を見る	その他	無回答		
葛西	6	0	0	14	0		
若洲	5	0	0	17	0		
城南島	0	13	0	0	48		
お台場	0	0	0	28	0		

4. 考察及び結論

夏、冬それぞれ4つの海浜公園の調査結果から、これらの公園は、利用者が人工海浜であることを殆どの人が知っていた。これは、人工海浜公園に対して人々の関心度が高いということであると思われる。しかし、交通機関に対する不満が多く、自動車でないで来園が困難な人工海浜公園もある。また、お台場海浜公園や葛西海浜公園はマスコミの影響を多く受けて知名度が高いのに対し他の2つの公園は口コミが多く、その結果としてリピーターが多く利用者の偏りがある。そして、いずれの公園も一人で来るといった意見より家族や友達、近所の人などと一緒に来園しているといった意見が大多数を占めていることから人工海浜公園が人と人とのコミュニケーションの場として利用されていると考えられる。さらに、どの公園の利用者も実際に公園内に入って自然と触れ合うことを求めている意見が大多数を占めている。以上のことから人工海浜公園が多くの人々に開かれた憩いの場や安らぎの場として提供されるためには、誰もが物理的にも心理的にも抵抗無く、安全に入っていける場所でなければならない。そして、年齢や性別などに関係なく容易に水際線に近づくことができ、その環境や景観を楽しむことができるだけでなく、今後は高齢者や障害を持った人々にも安心して楽しめる人工海浜公園造りを考える必要がある。また、海浜公園は長い水際線を持っているため、海面への転落事故や高波浪時の災害対策についても十分な安全対策を検討する必要がある。最後に、本研究を行うにあたり東京都港湾局の方々に多大なるご助言と貴重な資料のご提供をいただきましたことに対しまして深甚なる感謝の意をここに表します。また、調査にあたり日本大学学生尾崎智弘氏、阿久津仁氏に対し御協力いただきましたことに対し感謝いたします。

参考文献: 東京都港湾局開発部海上公園課;海上公園ガイド、1998年2月